

児童発達支援事業における自己評価結果(公表)

公表:令和8年 4月 2日

事業所名 しいのみ学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	ブランコを取り外すなどしてスペースを確保する	・個別の対応や面談等に利用するスペースがないが、現状の改善は難しい
	2	職員の配置数は適切である		○	親子分離時は出来る限り1対1で対応できるように職員配置に努めている	・看護師の確保はできたが十分な対応には至っていない ・保育士確保はできない状況が続いている、積極的に人材確保に努めたい
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		玩具をこまめに消毒、洗浄するようにしている 空気清浄機・加湿器を複数使用して環境衛生に気をつけている	・現在の対応を継続して行なっていききたい
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	△		日々話し合いの時間を持つように努めている	・職員不足により話し合いの時間を持てていないと感じる
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートの実施して保護者の意向、意見を酌むようにしている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・ホームページで公開して、保護者に周知している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		指定管理者基本協定書の規定に基づき年1回実施している	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・対象である研修には、積極的に参加していきたい。
適切な支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		懇談会を行い保護者と共に課題、目標等を話し合った上で作成する	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		半年に一度保護者も含めて支援についての振り返りをし、確認をしている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月ごとのおおまかなテーマを決めて季節に合わせた活動も組み入れている	・人数や子供の状況に応じた活動を工夫しているが、活動が偏らないように内容を工夫したり、新しい活動も取り入れていきたい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	活動前に必ず全員でミーティングを行っている		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	△		・記録を取る時間が十分確保できずやむを得ず就業時間外に行っている。一人あたりの業務が多いため、改善したい。人員確保が急務。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	必要に応じて連絡を取り合っている		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		こども病院の支援連絡会等に参加する等、関係機関との連携をとりながら支援を行っている	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医から医療情報連絡書、看護、リハビリ指示書をもらい療育、医的ケアを実施している	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園へ移行する児の様子を伝えたり、入園後様子を見に行くようにしている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		体験学習、一日入学への同行や、就学後の連絡会へ参加している	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		地域の保育園との交流保育を実施してる	・計画は立てたが、感染症流行のため実施できなかった。今後も予定は立てていきたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		・プログラムとして共通の支援実施は難しいので、個々の状況に合わせた家庭支援を行っていく
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々の療育の中で話を聞くように努め必要に応じた対応を行っている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		月1回程度保護者会を開催している 母親学級の開催を支援している	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	△			・より個別に対応を希望する保護者もいるため、人員確保や場所の工夫などしていきたい
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年度当初に療育内容の説明、年間行事計画を配布すると共に月1回お便りを発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々の状況に応じてコミュニケーションツールを使用するなど工夫している	・生活上の細かい事項に関して、口頭伝達が主となっているが間違いのないように工夫していきたい
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	学園としては行っていないが、社協の行事には参加している	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			・防犯については今後も情報収集に努めたい ・緊急時対応については保護者含め改めて確認をしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・園としての避難訓練を計画していく。 また、参加できない利用者に対しての対応を改めて検討していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		紙ベースでの記入と聞き取りを行っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			食べ物の提供はしていないが小麦粉等を使用したあそびには配慮している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	事例集を作成していないが、ヒヤリハットになるような状況があった時は職員間で共有し、対応を検討するなど安全対策に努めている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				・身体拘束は行っていない。研修会には参加していきたい

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。